



窪町だより

窪町小学校令和6年度9月号

窪町小学校ホームページ URL: <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/kubomachi-ps/>

「夏」

校長 西幅孝弘

パリを舞台に繰り広げられたオリンピック、全力で白球を追いかける甲子園、そして限界を突破し、心を揺さぶるパラリンピックがこの夏をいっそう熱くしてくれています。悲喜こもごもそれぞれの花を咲かせてくれます。

私は、聴取者のはがきを紹介していたラジオ放送が心に残っています。内容は、お孫さんのことでした。お孫さんは小・中・高校とずっと野球をやってきたそうです。今年は高校3年生で最後の地方予選があり、打席に立つときに演奏してもらう応援曲も決まっていたそうです。一試合目はコールド勝ち、2試合目はコールド負けでした。2試合目の朝、「今日は必ずバッターボックスに立つから」と言って出かけたそうです。けれどもバッターボックスにも守備にも一度も立つことはありませんでした。応援に行った両親は悲しくて泣いていたそうです。はがきの後、アナウンサーの方は、ご自身の経歴を語りました。大学まで部活動で取り組んできたけれどレギュラーになれなかった自分の体験を伝え、それが生かされて今があるということ、涙を含んだ湿った声で語っていました。一握りの成功がある一方で、多くの悔しさが存在することは確かです。華やかな応援の中、打席に立つという夢が叶わなかったお孫さんの姿は、悔し涙にくれる甲子園球児を映し出すテレビ映像と重なりました。

はがきを投稿したおばあ様の気持ち、お孫さんの気持ち、ご両親の気持ち、監督の気持ち、チームメイトの気持ち、私はそれぞれの気持ちに思いを馳せ、それでも、挑戦することの大切さと清々しさを感じたことを覚えています。

この夏、窪町小にも挑戦がありました。

「空へ続く足跡」はハンセン病に苦しむ人々に寄り添った医師の思いを伝える楽曲です。

8月2日金曜日、東京都小学校吹奏楽コンクールに出場した窪町小の仲間70名は、ステージから広い会場に向かって力いっぱい演奏しました。差別や偏見をなくし、人権を尊重するという大きなテーマで作曲されたこの曲には、悲しさや苦悩を乗り越えて、喜びが青空に真っ直ぐ向かう情景が描かれていました。曲の中のストーリーや背景となった人々の願いを想い、子どもたちは迫力と繊細な音の重なりで出色の表現をしました。曲の練習を通して、善悪や良心、公正、思いやりについて深く考えていくのだと感じました。音楽活動によって染みわたる道徳的心情を感じました。

そして今年の夏も、5年生は菊の水やりのため手分けをして休み中に施肥や害虫駆除など菊のお世話をしました。担当になった子どもたちが一つずつ植木鉢を手に持ちながら何度も行き来して学年全員の友だちの分も世話をしていきます。「あれっ。毎回来ている子がいる。」と気付いたのは8月中頃のことでした。当番の日ではないのに、自分の菊と友だちの菊をせっせとお世話してくれていました。菊が咲いたら、静かに伝えたいと思います。「毎回来てくれていたよね。ありがとう。」と。



飼育委員の子たちはカメのお世話を、栽培委員は花壇や菊の水やりに取り組んできました。自分の役割に責任をもって取り組む気持ち、その行動を見て今年も子どもたちの実直さや責任感に感激しました。



2学期も私たちは、子どもたち一人ひとりが自分の目標をみつけ、挑戦できるよう指導にあたります。「明日が楽しみ」な学校づくりを目指します。そして引き続き子どもたちのこころと身体の安全・安心を守り、子どもたちが互いのよさや違い、頑張りを認め合い、安心して学べる環境作りに努めます。

教育相談について

窪町小学校では、今年度も3名のスクールカウンセラーが勤務しています。教育相談室は、週4日開室しています。月曜日と水曜日は土岐、火曜日は原口、金曜日は田中が担当します。教育相談室は、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、サポートしていく場所です。何か困ったことがあるときに解決に向けて相談できるのはもちろん、何も無いときでもホッと一息つくことができる居場所です。また、今年度も4年生から6年生までの児童を対象とした全員面接を行っています。保護者のみなさまも、お子さまの学校での様子やご家庭での関わり方について、ご心配なことや気がかりなことがございましたら、小さなことでもかまいませんのでお気軽にご相談ください。

もしもに備えて 今できること

日本は自然災害が多く、これまでも多くの尊い命が失われてきました。本校では、児童が自分の身を自分で守る知識を身に付け、落ち着いて状況を判断し、避難行動が取れるよう、毎月、様々な災害を想定した避難訓練や不審者対応訓練を計画し、行っています。また、授業中や休み時間、掃除中など、時間帯も様々な状況を想定しています。児童は、避難訓練を行うごとに、自分たちがしなければいけないことを理解し、行動ができるようになっていきます。

そして、9月2日は、文京区では区立幼稚園、小中学校一斉に引き渡し訓練を実施します。文京区では、東日本大震災の教訓から震度5弱以上の地震が発生した場合、保護者等が引き取りに来るまでは、児童、生徒を学校で保護することを原則としています。この機会に是非、通学路を歩きながら、倒れやすいものがないか確認しながらお子さんとお話をいただければ幸いです。また、ハザードマップを確認する、地震に備え家具を固定する、非常用持ち出し袋を準備する、避難先や連絡先を確認するなど、もし地震や災害が起きたとき、どうしたらよいか、ご家庭で話し合っていたいただければと思います。

令和6年度 運動会

10月5日(土)に「教育の森公園自由広場」にて運動会を開催します。各学年による短距離走、表現、全校競技として大玉送りを行います。今年度は、各学年の代表を選出し、学年を超えた選抜リレーも行います。

運動会は、子どもたちが日常の体育の学習で身に付けた力を発表する場です。また、友達の良さを見つけ、友達と協力する心を育む絶好の機会でもあります。本番に向けて教職員一同、安全に十分配慮して練習に取り組んで参ります。

今年度も運動会の成功に向けて、子どもたちへの励ましを含め、ご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

保護者のみなさまには、参観の入れ替えやテントの設営等、ご協力をお願いすることも多々あり、恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

「いじめ問題対策・対応委員会」について

学校におけるいじめ問題は、今日、緊急かつ重大な問題でありその対応が強く求められています。学校は、児童にとって安心できる安全な場所にならなくてはなりません。学校はそうした環境作りを主体的・積極的に行っていく責任を負っています。本校でも、いじめ問題に迅速かつ確実、適切に対応していくために「いじめ問題対策・対応委員会」を設置し、全校をあげて、その問題解決にあたっています。

教職員で報告・連絡をし、情報交流をしています。児童には、普段の様子以外にも「心のアンケート」やQU(学級満足度調査)などを実施することで、潜在している問題にも気付けるようにしています。また、未然防止に向けて、「いじめ」に対する学習を道徳や学級活動などで行ったり、「ふれあい月間」などを通して、全校児童に一斉に発信したりしています。何よりも、本校の校舎に入ったところにある「ほわほわことばの木」には、お友達への優しい言葉使いが常に掲示されています。これは、窪町の子どもたちにとって、知らず知らずのうちに身に付く「人を大切にする言葉」の基礎となり、きっと、いじめのないかわり方のできる人を育てるのではないのでしょうか。そう願ひ、日々、教育活動を行っています。

